

令和7年度 第1回教育課程編成委員会 要旨

日時：令和7年8月6日（水）13：00～14：50
場所：国際園芸アカデミー 研修室A（オンライン）

【あいさつ（今西学長）】

今年度は、マイスター科に新入生23名が入学。出願は36名であったが、質のいい学生が来てくれたと楽しみにしている。

また、今年度は、第42回全国都市緑化フェアが行われ、本校も非常に大きな関わり合いを持って進めてきた。さらに、秋篠宮佳子さまに、本校をご視察いただいたというような、ありがたい事柄もあった。

8月3日、4日に香川県で行われた若年者ものづくり競技大会では、造園職種に県を代表して参加をした。入賞には至らなかったが、本人にとってもいい経験にはなったと思う。

技能五輪全国大会には、フラワー職種で、本学から二名、出場する。

また、9月には、海外視察研修で、シンガポールへ二年生が参加。いい収穫を得て帰ってきてくれることを期待している。

本校は平成30年に、文部科学省より職業実践専門課程の認定を受けており、教育課程編成委員会も認定を受けるときの条件の一つになっている。本委員会は、企業や業界団体との連携を図りながら、実践的な教育の保証や向上を目指すために設置されている。専門的な知識を業界の方々からご意見を頂き、カリキュラムの編成、授業体系の組み立てに活かしていきたい。

【委員会の成立について（宮田副学長）】

委員11名中7名の出席をいただいております、過半数の出席であるため、教育課程編成委員会規程第8条第1項の規定により、本日の教育課程編成委員会が成立。

【検討事項1：令和6年度カリキュラムの実施状況について】

（資料1～3により説明）

委員から特段の意見なし。

今西学長

- ・学生は毎年変わるので、見極めもしながら引き続きカリキュラムの編成を見直していく。

【検討事項2：令和6年度ぎふワールド・ローズガーデンを活用した授業について 分野別授業の実施状況】

(資料4-①～4-③により説明)

日比委員

- ・造園コースの花壇について春と秋の植え替えの時期は。

井戸調整総括

- ・春は5月、秋は10月。

日比委員

- ・ワールドローズガーデンの入場料の有料期間中を狙ってこの期間に設定してあるのか。

今西学長

- ・来園者の動向、イベントの時期、メインのバラの時期など指定管理者と調整しながら設定。

宇野委員

- ・ワールドローズガーデンでの販売している花の価格帯は。

前田委員

- ・一般的な価格よりも安い。ビオラだと70円ぐらいで販売。

宇野委員

- ・実際の店頭価格で売ってもらえると、販売することの厳しさがわかるのではないか。
- ・装飾の授業では大量に花を使っただき感謝申し上げる。
- ・県、農協に要望しているが、秋前のイベントが全然なく、結婚式もだいぶ減り需要が減っている。

田村委員

- ・県の条例で8月7日を花きの日としている。
- ・現在、岐阜駅の2階県アンテナショップでイベントを開催中、またWebサイト「ぎふ花と緑」やSNSでも県産花きのPRを継続的に実施。

大西委員

- ・農家は、コスト計算をどんぶり勘定で済ませてきた時代もあり、現在は厳しい時代になった。
- ・一鉢70円で販売しているとのこと。資材費、人件費にかかる支出のデータがない中、単価を自分たちで設定して販売しているようだが、支出費について度外視しているのでは。

前田委員

- ・作業にかかった時間は実習のため算出できていない。人件費の説明はしながら授業をしているが一鉢あたりのコストについて厳密な計算はできていない。

大西委員

- ・せっかく実習で生産から販売までされているので、1ポットあたりいくら経費がかかるという細かい数字まで落とし込めるとよい。
- ・販売している価格は、一般的な価格設定ではないので、ビジネスの概念があると全く儲かっていないことが少しでもわかるといいと思う。

前田委員

- ・一般的な小売価格等も含め、計算的な実習の中で伝えていきたいと思う。

國井委員

- ・装飾コースの卒業研究の時間が減っている理由は。

林准教授

- ・コロナ明けから減っている。減っている理由として授業時間の見直しを行ったときに、少しコンパクトにできるのではと、30時間分減らした。
- ・減らした分は、装飾コースの場合、フラワービジネス演習などで対応。

田村委員

- ・装飾の授業ではある程度コストに対する意識もあるように感じたが、生産の授業ではコスト意識については、どうなのかというのは他の委員と同じく感じた。
- ・資料中の「異なる客層をターゲットとした販売戦略」について、学園祭とワールドローズガーデンの客層では、具体的にどういうところの違いを学生さんが感じながら取り組まれたのか。

前田委員

- ・学生自身、販売が初めてなので、客層の違いがまずわからない状態。教員の経験では、学園祭は割と高齢の方が多いが、ワールドローズガーデンは若い家族連れの方も多く、それに加え花に関心が高い方が多い。

日比委員

- ・造園のコースについて、ワールドローズガーデンの花壇が90平米あり、全部植え込むのは、花数も多くて、大変ということであれば、せっかく造園コースなので、ある程度樹木も使って花を植えるなど造園的なアレンジができるというようなところも取り入れていけばいいか。
- ・これから先、例えば石や樹木、いろんな木質のものなどのアレンジも植えていくと、造園的なセンスが磨かれるのではないかと思う。

今西学長

- ・ワールドローズガーデンは花壇エリア、造園エリア等のエリア分けがある
- ・全体的なレイアウト、全体的な一年としたプランは、指定管理者が基本的には作るという中で、本校が一年のうちのこの期間だけ、この作業を学生が実習としてやるというストーリーになっているので、指定管理者と十分に調整しながら進めていければと思っている。

【令和7年度ぎふWRGを活用した授業計画について】

(資料5により説明)

今西学長

- ・令和7年度も通年で、一年生、二年生それぞれがワールドローズガーデンを使用して授業を実施
- ・往復の時間も考慮して、できるだけ一日にやる時間を半日単位、一日単位まとめて、授業するよう工夫。
- ・実習及び座学ができるフィールドとして提供いただいたが、本校専用の施設ではなく公園施設として、どなたでも使うことができる施設であるという認識を持って施設管理者は運用している。
- ・公園部局と農政部局の意識統一及び手続きもされてないという部分ではあるが、少しずつでも多くの授業がやればよいと思っている。
- ・先ほど本校専用ではないと申し上げましたのは、実際に緑、花の関係業界にて会議、総会で使われていたり、管理者自身も自分たちの会議で使っているため。
- ・あとは往復の時間のロスを乗り越えながら進めていければと思っている。

日比委員

- ・資料の参考項目は、交付対象事業だからこの時間分は利用すべきという数字か。

井戸調整総括

- ・国のデジタル田園都市交付金を活用しており、これだけ利用するという目標。

今西学長

- ・総務省の交付金が使われていて、例えば7年度は503時間授業で利用する予定であるが、交付金の関係だと386時間の利用で良いということ

井戸調整総括

- ・7年度は実習フィールドと花トピアも含めて503時間利用する計画。

今西学長

- ・ワールドローズガーデンの活用について、念頭に置いていることはご理解いただきたい。

【意見交換：業界の動向、求める人材について】

宇野委員

- ・インターンシップや見学に来ていただいたが、最近の子は質問することが減っており、年々おとなしくなっている感じがする。
- ・今の子供は、感性で育ててもらうことが大事だと思う。
- ・花業界はいらないの？という現状。名古屋の間屋も最近リストラされていることも聞いており、大阪と名古屋、東京の間屋で同じ人が店長をやっている状況。
- ・今休むことが日本の社会の常識になってきたが、農家は休まずやっている中で、お金を儲けて人を雇えと言われても、とても無理な状況。
- ・燃油の購入に対して補助金を出してもらっているが民間と国との間で、単価に誤差があると感じている。また、エアコンを使うと電気代もかかる。日本の農業のモデルも変えていかないとけない。
- ・学生さんに夢をと言われて発言してきたが、それすらこの夏、厳しくなっている状況。
- ・時期の花しか売れないという状況。
- ・運送代金が一箱あたり 50 円上がり、1 ケース 450 円が 500 円になるが、販売単価は上がらない。
- ・この 9 月か 10 月からの見通しが不安。結婚式はない状況で、販売先の確保のため景品で使ってもらうとか、今いろいろ提案している。
- ・花屋がどんどん潰れていく年になるのでは。
- ・気温 35 度から、暑さ手当が建築業界はある。35 度超えたら、働かない状況になっている。

日比委員

- ・今年から、暑さ手当を出している。

宇野委員

- ・農家は今の最低賃金でもパートや研修生を雇うのは厳しく、自身の経営を存続させていくことだけという状況になっている。
- ・学生には簿記をつけてもらって、これだけ残ったから、家族を養うことができるという計算までできるようにしてあげると一番いいんじゃないかなと思うので、一度検討願います。

大西委員

- ・鉢花も大変厳しい。切り花より多分厳しい状況。
- ・いくらで生産して、いくらで売れなきゃいけないくて、現実いくらでしか売れていないのかという価格分析が必要。
- ・人件費について、最低賃金が上がり今後も上がる一方。そんな中でコストを計算しながら、本当にいくらで売らなきゃ経営が維持できないのかという視点を持っていかないと、生き残れない。

- ・この夏、ホームセンターや量販店などの取引先と話したが、人がいないため店のメンテナンスもなかなかできない。人を雇えても、休みを与えないといけないから、臨時のヘルプの人が対応している期間に売り場が荒れてしまうなど売り場も大変である。無人で販売できる商品を集めるお店と、従業員一人が客一人についてみたいなお店の両極になっていくのではないかな。
- ・ただ良い製品を作るだけではなく、どういうサービスを付加すれば、どこのお店に買い取ってもらえるのかという視点も学生のうちに何かヒントになるようなことが、ここで学べれば良い。

国井委員

- ・同じくビオラを直売所で販売しており、安く売りたいが手数料等を考えて値段をつけて直売所で販売。
- ・同じ直売所に、もっと安い値段でビオラを売っている人もいるが、品質が良ければ、値段を少し上げたとしても売れるのではと思っている。
- ・アカデミー卒業生であり後輩と話した時に、技術面は授業で身につくが、コミュニケーション力が一番必要だという話になった。
- ・ワールドローズガーデンを活用する機会があるので、その際に、来場者等と関わって、コミュニケーション力を磨けるとよい。

前田委員

- ・ワールドローズガーデンでの販売の時は、直接来場者と接するので様々なコミュニケーションは発生している。
- ・上手に受け答えできる子、できない子もいるが、コミュニケーションという意味では、活用できている。

林准教授

- ・装飾の授業でディスプレイをした時は、アンケートの用紙を使って、来場者の感想をもらっているが、直接来場者と接する部分はあまりない。

今西学長

- ・造園の場合、施工中は安全も考慮し、来場者と関わることは全くない。ただ、維持管理時には来場者から花のことを聞かれれば回答している。そもそもワールドローズガーデンでの授業は、コミュニケーション力をつけることも狙いであり、引き続き実施していく。

日比委員

- ・造園緑化も公共緑化から家庭緑化と幅が広がってきている。
- ・また庭の設計、維持管理から、指定管理をはじめとする管理運営業務に移行してきている影響もあり、求められるものが非常に多くなっている。
- ・大きな公共団体から都市部の小さな市町の方に、指定管理等の PFI 事業が移りつつあり、地方行政が資金的に非常に苦しい中、運営を民間に委託をして、民間で儲けながら運用してほしいという形が非常に目立ってきている。
- ・そのため造園的な能力、スキルだけではなくて、いろんな経営の感性などの多岐にわたる能力が必要な業界になってきた。
- ・また、公共工事もどんどん目減りしている中で、企業間連携も非常に重要になっており、異事業種連携で、全く違う分野同士で組むことにより新しいスキームを作っていけるような仕組みづくりを進めていかないと感じている。
- ・学生には、知識とスキル、資格をできる限り幅広くとって身につけていただきたい。

田村委員

- ・法人的な経営をやっている花の生産者は、自分の右腕になる人を欲しいと聞いている。
- ・就職する時には自分の入る会社の考え方、ポリシーも勉強しておくことが重要で、インターンシップの段階から留意されて進められたらどうかと思う。

今西学長

- ・皆様方から大変貴重なご意見いただきまして、ありがとうございます。
- ・私ども技術を第一にしておりますが、感性を磨く必要性や、新しい業態を見出していくということ、販売だけではなく、今の仕事について、戦略をもって取り組むことも必要。
- ・コミュニケーション能力は、学校側の取り組みを紹介すると、毎年、特別講座を開講しており、アナウンサーの方に来ていただいて、「ものを伝える話し方」、「伝わる話し方」というのはどういうことなのかということと、動作など体現的なコミュニケーション能力と言語によるコミュニケーション能力、この両方が必要だという話をさせていただいている。
- ・ワールドローズガーデンの活用は、一般の来場者たちとコミュニケーションが少しでも取れるようにという狙いも大きくあり、引き続き進める。
- ・今は、スペシャリストの育成から、ゼネラリストとかマルチスタッフになり得る人材が求められているので、その辺を意識しながら、カリキュラム編成や授業内容を作っていこうと思っております。
- ・これからも皆様方の業界のニーズを把握しながらカリキュラムを作ってまいります。

田村委員

- ・満足度 4 の授業があるが、例えば No. 3 の授業は到達度総平均はそこまで高くない。満足度が高いと到達度総平均も高くなるのではないか。

前田委員

- ・満足度と到達度総平均については、関連性はあると考える。ただ当該授業の受講者数は3人と少数であったため、到達度総平均を出したところ下がる結果となった。

小笠原委員（欠席された委員からいただいているご意見を事務局より紹介）

- ・いつも綿密な計画をたてられており、学生の皆さんも充実したキャンパスライフを過ごせると思う。
- ・若い時に園芸の基礎をしっかりと頭と体で覚えてもらえるようなカリキュラムを望む。

山田委員（欠席された委員からいただいているご意見を事務局より紹介）

- ・資料6の求める人材について、各業界へのアンケートを実施してその動向を把握されていることは、大学としても見習わなければいけない。
- ・是非これからも産業界からの声に耳を傾け、有用な人材を輩出していただきたい。
- ・大学における新たな取り組み紹介として、自主的な学びを意識づけるために、「学修成果に関する情報」を「見える化」するためのシステムを近年導入。
- ・自らが修得した単位を学年ごとに積み重ねた結果、「学ぶべき基礎的能力（進める力、伝える力、考える力）」をどの程度身につけたかを、レーダーチャートのように可視化する仕組みで、これにより達成度合いを自己確認することができ、さらなる学習意欲を引き出そうという狙い。
- ・これに、自分が進みたい業界から求められているスキルや能力などの情報をリンクさせると、より有効なシステムになると期待。
- ・最近の学生たちは、自分たちの成長が見える形で認識できると自己肯定感につながるようです。今後数年の経過を見て、学生たちにどのような変化が起きているかについても、引き続き情報共有する。

【閉会（宮田副学長）】

委員の皆様に変え大変貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。いただいたご意見をもとに今後の授業やカリキュラム編成に生かして参りたい。

以上で、令和7年度第1回教育課程編成委員会を閉会する。